

# News Release

2020年9月17日

報道関係 各位

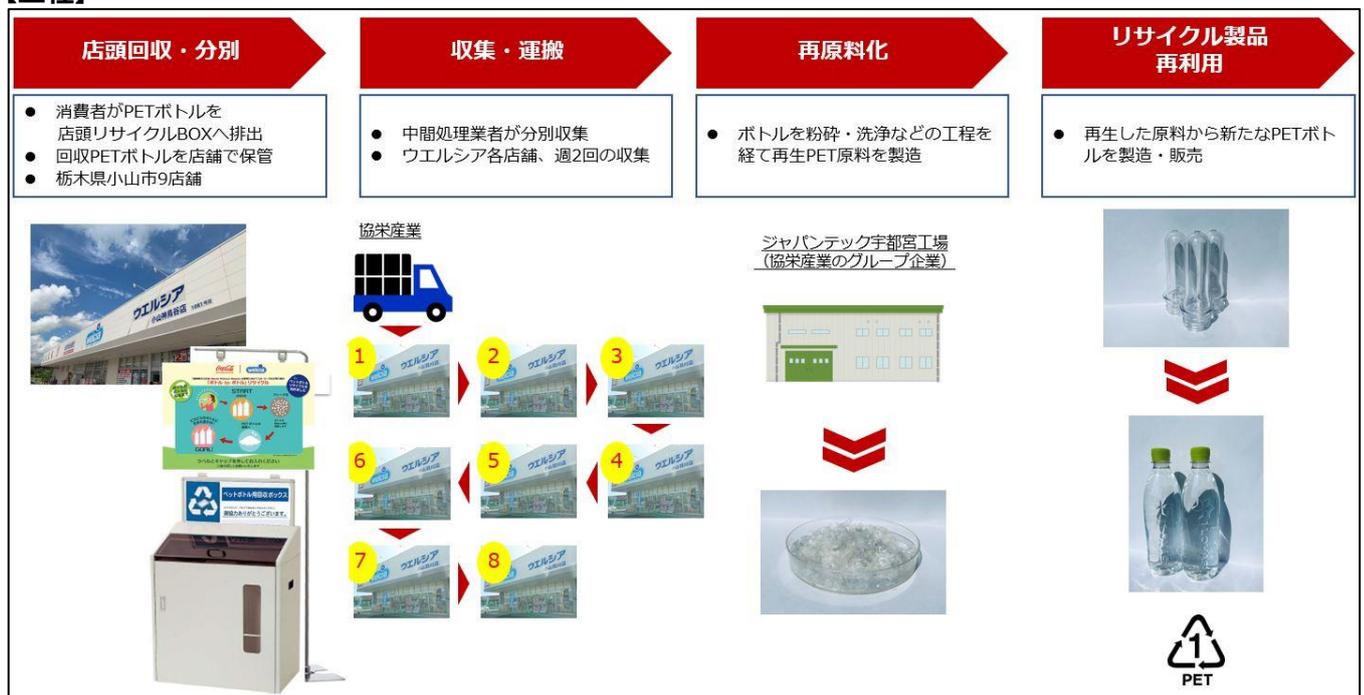
コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社  
 ウエルシアホールディングス株式会社

## コカ・コーラ ボトラーズジャパンと「ウエルシア」、 PET ボトルリサイクルに関する実証プロジェクトを開始 栃木県内 8 店舗で PET ボトルを回収、「ボトル to ボトル」推進で協働

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社（本社：東京都港区 代表取締役社長：カリン・ドラガン、以下 コカ・コーラ ボトラーズジャパン）とウエルシアホールディングス株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本 忠久、以下 ウエルシア HD）は PET ボトルリサイクルに関する実証プロジェクトを 9 月 23 日（水）から開始することになりましたのでお知らせします。実施期間は 3 カ月を予定しています。

本実証プロジェクトはコカ・コーラ ボトラーズジャパンとウエルシア HD が、店頭回収した PET ボトルを新たな PET 原料としてリサイクルする「ボトル to ボトル」（注 1）のリサイクルモデルを共同で構築することを目的としており、ウエルシア HD が PET ボトルの店頭回収と分別、コカ・コーラ ボトラーズジャパンは分別された PET ボトルの収集から再原料化まで一連のリサイクル工程の設計・監修を担当します。9 月 23 日から、ウエルシア HD が展開するドラッグストア「ウエルシア」の栃木県小山市内 8 店舗の店頭で回収ボックスを設置、回収された PET ボトルはコカ・コーラ ボトラーズジャパンの「ボトル to ボトル」の取り組みを推進する協力会社の一つである協栄産業株式会社により収集され、再生 PET 原料を製造する専用工場（ジャパンテック宇都宮工場など協栄産業グループの工場）にて粉碎・洗浄などの工程を経て、PET 原料として再原料化されます。3 カ月間の実施期間を経て、回収量、質、コストなどの検証を行い、対象地域・店舗を拡大した本格展開の開始は、2021 年 3 月を予定しています。

### 【工程】



今回の実証プロジェクトは、再生 PET 原料を製造するジャパンテック株式会社宇都宮工場に近く、家族連れが主な客層である「郊外型店舗」が多く所在する地域性を活かし、栃木県小山市内で実施します。家庭から回収される PET ボトルは洗浄されているものが多く、再生 PET 原料に適した使用済み PET ボトルが集まることを見込んでいます。

コカ・コーラ ボトラーズジャパンは、コカ・コーラシステムが目指す「容器の 2030 年ビジョン」(注 2)において、2025 年までにすべての PET ボトル製品へのリサイクル PET 樹脂などのサステナブル素材の使用、2030 年までに販売した自社製品と同等量の PET ボトルの回収、パートナーとの協働による着実な容器回収・リサイクルスキームの構築などに取り組んでいます。一方、ウエルシア HD は近年、バイオマス原料を配合したレジ袋の有料化など石油由来プラスチックの使用量削減をはじめとした、ESG への取り組みを拡大・強化しており、これまで実施していた PET ボトルの店頭回収方法を見直し、100%の再資源化を可能とする「ボトル to ボトル」の仕組みづくりを検討していました。このような背景から、コカ・コーラ ボトラーズジャパンが有する使用済み PET ボトルの回収・再資源化に関する知見と、ウエルシア HD の販売網を連携した有効活用が期待できる、実証プロジェクトを進めることになりました。

コカ・コーラ ボトラーズジャパンとウエルシア HD は本実証プロジェクトを進めることで、使用済み PET ボトルのリサイクルに貢献し、日本国内の PET ボトルの循環利用に寄与してまいります。

### 【使用済み PET ボトルの回収に関する実証プロジェクト概要】

期間： 2020 年 9 月 23 日 (水) から約 3 カ月

回収店舗： 栃木県小山市内「ウエルシア」8 店舗

(ウエルシア小山羽川店、ウエルシア小山花垣店、ウエルシア小山天神店、ウエルシア小山神鳥谷店、ウエルシア小山雨ヶ谷店、ウエルシア小山犬塚店、ウエルシア小山駅南町店、ウエルシア小山西城南店)

(注 1) ボトル to ボトル:

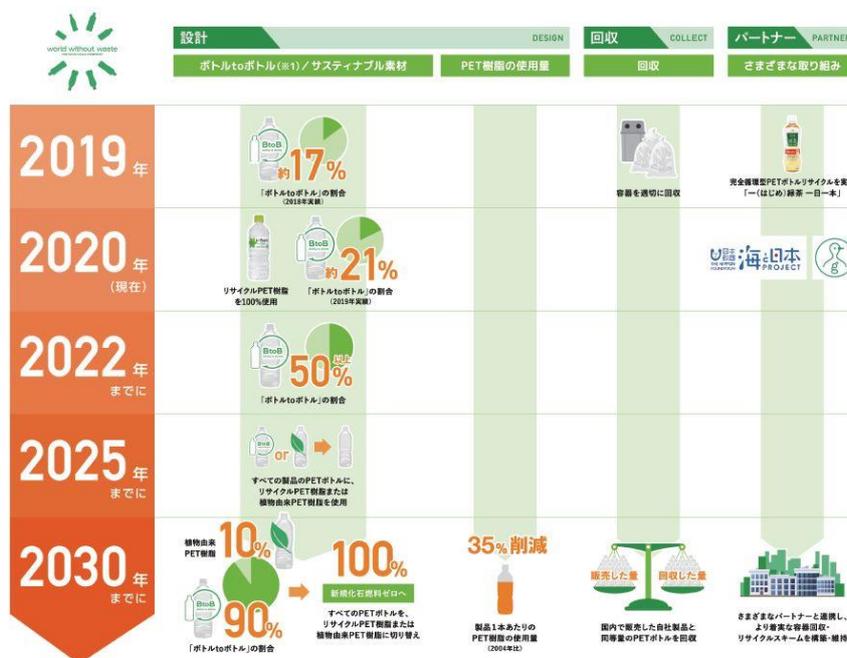
使用済み PET ボトルを回収・リサイクル処理したうえで、再び PET ボトルとして再生し、飲料の容器として用いること容器由来の廃棄物の問題の解決のため、「設計」「回収」「パートナー」の 3 つの柱からなる活動に取り組んでいます。

(注 2) コカ・コーラシステムが目指す「容器の 2030 年ビジョン」

(<https://www.ccbji.co.jp/csv/environment/?id=tab3>)

## 日本におけるコカ・コーラシステムの「容器の2030年ビジョン」

2019年7月、日本のコカ・コーラシステムは、「World Without Waste (廃棄物ゼロ)」の実現に向けた取り組みをさらに加速するべく、「容器の2030年ビジョン」を更新し、新たな環境目標を策定しました



【コカ・コーラシステムのサステナビリティへの取り組みについて】

日本コカ・コーラ株式会社と全国 5 社のボトリング会社などから構成されるコカ・コーラシステムは、「世界中をうるおい、さわやかさを提供すること。前向きな変化をもたらすこと。」の事業目的ののっとり、日本が直面する重要な課題に対し、ビジネスを通じて変化をもたらしながら、未来を共創していくことに責任を持って取り組みます。2020 年には「多様性の尊重」「地域社会」「資源」の 3 つのプラットフォームと 9 つの重点課題を特定し、システム共通のサステナビリティフレームワークを策定しました。各領域において事業活動を通じて社会課題の解決を目指すことで、持続可能な開発目標（SDGs）の達成にも貢献してまいります。

特に「資源」の領域においては、グローバルビジョン「World Without Waste（廃棄物ゼロ社会）」に基づき、「設計」「回収」「パートナー」の 3 本の柱から成る「容器の 2030 年ビジョン」を策定。2030 年までにすべての PET ボトルを 100%サステナブル素材に切り替えることなどを骨子とした日本独自の環境目標を設定し、その実現に取り組んでいます。詳しい活動内容については、最新のサステナビリティレポートをご覧ください。

<https://www.cocacola.co.jp/sustainability>

ニュースリリースに記載された情報は、発表日現在のものです。最新の情報と異なる場合がございますので、あらかじめご了承ください。